

「霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 26 年 3 月 4 日（火）10:00～10:20

常陸河川国道事務所 1 F 地域支援室（C）

発言者：意見発表者 4

私は、水戸市在住の●でございます。●●●漁業協同組合に所属しております、組合員になって那珂川で漁をやっております。今回の素案決定に欠落しております那珂川の漁業に対する被害について述べさせていただきます。素案で言うならば総括表、水質浄化のコスト実現に関した意見になります。ご承知のこととは思いますが、那珂川のアユは日本一の漁獲高を誇っております。お配りした資料の 1 枚目をご覧ください。このグラフは少しデータは古いのですが、2004 年の漁獲量の比較です。那珂川、栃木と合わせて全国でダントツの漁獲量を誇っております。しかも、養殖のアユは少なく天然物がほとんどでございます。写真の上がデータで、下が小場江堰の稚魚が遡上する状態でございます。次のページです。これは栃木の梁と釣り人たちの状況です。原発事故はやはり風評被害の影響を受けておりますが、シーズン中には 30 万人、40 万人という釣り人が訪れます。こうした釣り人が入漁券を購入するので、漁協の入漁券収入は期待できます。釣具店や関連する商店も、釣り客減少は頭の痛い話です。天然アユが減少し、いなくなってしまうのは、釣り客が減少し関連する商店や漁協は大きな損害を被ります。観光資源としても那珂川のアユが放れ映る事業が重要です。資料の 3 枚目が栃木の梁です。4 枚目は上が梁でアユを掴んでいる子供の写真です。次は梁で捕れたアユを食べさせてくれる所です。梁の全体を写したものです。那珂川には、特に栃木県には大きな梁が存在します。天然アユが梁に上がるのは大変な魅力で、多くの家族連れや観光客が初夏から秋のシーズンに梁を訪れます。こうした梁も、アユが上がらなくなってしまう場合は問題です。アユが枯渴した川では、川から全くアユが上がらないため、係のおじさんが養殖のアユをバケツで梁の上に散りまいたりします。那珂川はそのような情けないことになってはおらず、全国でも自然の豊かな貴重な川です。流域にはアユの塩焼きを食べさせてくれるような食堂など、商店も多数あります。観光客が車を止めて、店頭で焼いているアユをほおぼっている姿もよく見られます。ホテルや旅館などの宿泊所も那珂川のアユ料理を魅力に宿泊客を集めています。アユ資源が減少してしまうようなことになってしまった場合には、こうした流域の飲食店、観光業、宿泊業なども、みんな打撃を受けます。原発の風評被害から脱したとしても川からアユがいなくなってしまうのはどうしようもありません。こうしたことから、導水事業に流域の 3 つの市と町の議会が反対を掲げています。全国の漁業協同組合 805 団体が参加する全国内水面漁業協同組合連合大会においても、満場一致で霞ヶ浦導水取水口建設に反対する決議を採択していただいております。茨城の漁協では、アユ資源を維持、増加させるために稚魚の放流を行っています。栃木の漁協でも那珂川の流量を増やすために、上流の山への植林を行うなど努力をしています。それなのに、国土交通省は導水事業で貴重な川の水を取り、同時にアユの稚魚を吸い込んでしまうのでしょうか。この点、国土交通省はアユの稚魚も他の魚類も吸い込まれないと言います。しかし、私が知っています渡里農業用水があるんですが、そこらでは取水口の所からアユやほかの魚が吸い込まれております。霞ヶ浦の汚れた水が那珂川に持ってこられるのも問題です。私は取水口のすぐ下流で、秋にはサケの漁を行っております。カビ臭がするような水が那珂川に入れられて、サケが影響を受けないか大変心配です。アユはもっと深刻ではらわたも食べたりします。ですから、くさい臭いはずいぶん気になることでしょう。香りが良いので香魚とも呼ばれるアユが台無しになってしまうことは許せません。浄化の点も問題です。那珂川から水を引っ張って、

果たして霞ヶ浦が浄化できるのでしょうか。この点では、私が住んでいる水戸市のすぐ近くなのですが、楮川ダムというダムがあります。標高の高い楮川ダムにポンプアップしておりますが、それを始めた当初、一時アオコが発生しまして、非常に水道水がイヤな臭いがするという事で大注目されました。そういうこともあり、那珂川の水を取水し溜めるとアオコが発生するのです。そのために現在では、空気を送り込んだりしております。そのような状況ですから、那珂川の水を霞ヶ浦に送っていったところで、アオコが発生してしまうのではないかと。現実に浄化できるか。確証もないのに那珂川の漁業を台無しにするような事業を止めて欲しい。そう思います。今回の素案はいろいろと厳密に比較しているように読めますが、実際のところ、最も重要な那珂川の漁業被害について、全く真摯に検討していないところに最大の問題があります。国土交通省は自分の調査を都合良く公表し、結果的には漁業被害について無視しております。内水面試験場の調査でも、農水省の調査でも、アユを中心とした漁業被害がはっきりと生じる可能性があると言えるわけです。国土交通省はほかの機関の調査を信用できないというのでしょうか。検証というのであれば漁業被害も関連するこうした研究結果を、正面から真摯に検討すべきです。コストということであれば、事業に掛かる費用だけでなく、漁業被害についてこそ真剣に検討するべきではないでしょうか。理解について今後更に調整を行う必要があると思うのですが、一方で那珂川のアユ資源を奪って台無しにしておきながら、他方では導水事業を安上がりだと言うのは何事だということになりますし、漁民を犠牲にして建設業者を潤すのかと怒りを買うわけです。国土交通省が漁業関係者の理解を話題にするのならば本当に漁業被害が起きないのか、科学的に検証して素案に盛り込んでいただきたいと思います。私は那珂川が全国一のアユの川から、取るに足りない魅力のない川、釣り人が集まらないような川になってしまうことを、ただ指をくわえて見ているわけにはいきません。このことを述べさせていただきまして意見のまとめといたします。